

ティーチング・ポートフォリオ

大学名 東京都市大学
所属 建築都市デザイン学部建築学科
名前 福島加津也
作成日 2022年8月30日

1. 責務

建築学科 設計・計画系教員

・担当授業

学部

SDPBL(1)(1年、必修) 設計(5)(3年、選択必修) 設計(6)(3年、選択必修) 事例研究(3年)

B4ゼミ(4年) 卒業研究(4年)

大学院

建築設計特論Ⅱ(M1、選択必修) M1ゼミ(M1)、M2ゼミ(M2) 修士研究(M2)

・学内運営

教務委員

2. 理念

- ・社会や時代から自律した人材を育てる
- ・自分で考えて行動する人材を育てる

*持続的に発展する社会をつくる

3. 方法

1. 学びとは何か？を考える

新しいものの発見や発明ではなく、すでにあるものの再発見や改良である

- ・自分が考えていることを認識する =自分を知る
 - ・自分が考えていることを他者に伝える =他者を知る
 - ・社会の状況を調査して問題を発見する =社会を知る
 - ・問題を分析して解決方法を提案する =自分と社会のズレを知り自分と社会をつなげる
-
- ・問題の奥に隠れている要因を意識する
 - ・問題が発生した時代の流れや社会の構造に注目する

2. 協働するための総合力を身につける

- ・学びにおける調査、発見、分析、提案、発表という方法論
 - ・教員だけでなく学生同士が意見を交換し合う
 - ・専門家の意見を聞いて社会との連続感を獲得する
 - ・自分の意見を言い友達の意見を聞くことから第3の意見をつくる
-
- ・答えを教えない 学生の自主性を伸ばす

3. 授業の評価基準の明確化によって学生の学習意欲を育成する

- ・教員と学生のインタラクティブ型授業による教育内容の活性化
 - ・小人数型のスタジオ方式
 - ・授業終了時に次週までの to do リストを提出
 - ・テーマに沿ってレジメを作成し、毎週発表を行う
-
- ・小さな課題を一定間隔で行うことにより、授業内容を自然に覚える

* リモート型授業やハイブリッド型授業の中長期的な大学教育への貢献

* 建築考古学（歴史の断片から現代の建築を再構築する）

* 建築構造学（建築の背後にある考え方の構造を見出す）

* 日本の伝統的建築物の木造技術を調査し現代の建築に活用する

* 教育と学習は一人ではできない

4. 成果

・ 授業改善アンケートでは、詰め込み型ではなく見ていて楽しいという意見がみられた（授業アンケート）

・ 学生は自主学習の内容が明確になり、教員はその学生の指導方針をスムーズに確認することができるようになった（to do リスト）

・ 就職希望や大学院進学希望の学生に対して、試験に必要なポートフォリオや即日設計の指導を行い、高い合格率を得た

・ 学部生が卒業設計で本学の優秀賞を 4 名が受賞し、大学院生は修士設計で本学の優秀賞を 2 名が受賞した。

・ 大学院生が本学の学生表彰を 2 名が受賞しし、学外の設計競技に 6 件が入選した

・ 研究室の活動が河合塾の運営する Web サイト「ゼミ・研究室ナビ」に掲載された

5. 目標

* 分量の目安：3-6 行（120-240 字）

* 教育活動に対する今後の短期・長期の目標を示します。短期目標は達成時期を示しておきましょう。

・ 建築

建築を丁寧につくる手と深く考える頭によって、新しい建築デザインと建築教育を目指す

・ 大学

学生と教員がプライドを持つことができる大学にする